

復興を歩む

vol.47
最終回

あたりまえをありがたいと思う日

3月10日、交流センター「ふれ愛館」で、「あたりまえをありがたいと思うエピソード表彰式」が行われました。

村は、被災により改めて気がついた「あたりまえのありがたさ」を広く伝えようと、昨年、3月11日を「あたりまえをありがたいと思う日」としました。今回は全国に向けて、「あたりまえをありがたいと思うエピソード」を募集し、寄せられた約100通の作品から各賞を選びました。

式の初めに、菅野村長が、震災の犠牲者に哀悼の意を表し、「多くの人が、今、平凡だと思っている日が大切だったと話している。この気持ちを忘れないようにしなければならぬという思いから生まれた企画。いろいろなエピソードを寄せていただき、ありがたい」と感謝しました。

式では表彰に続いて、4人の

上位入賞者が、ふるさと、家族、人生などをテーマにしたそれぞれの作品を朗読。120人を越える聴衆が、ありふれた日常の幸せに思いを馳せました。

優秀賞を受賞した相良玲華さん（白石）は、婚約者への感謝をつづり、婚約者本人には伝えずに応募しました。その思いを壇上から客席の彼に伝えることとなり、会場も、胸キュンの場面をあたたかく見守りました。

また、愛知県の春日井市立東部中学校の3年1組では、担任の服部貴裕先生が、この企画を道徳の授業で取り上げ、生徒の皆さんの言葉を村に届けてくださいました。村は、3年1組に、特別賞を贈りました。

式の第2部では、歌手・大島花子さんのミニコンサートが開かれ、エピソードのやさしさが染みわた聴衆の心を、美しい歌声がさらに満たしてくれました。南相馬市から来場した女性は、「同級生に誘われて来ました。エピソードを聞いて、確かにその通りだと。あたりまえに感謝して生きていきたいと思いました」と話していました。

語りかけるようにエピソードを朗読する最優秀賞の渡邉陽南子さん。表彰式に出席するため千葉県から来村しました。「飯館村は、自然の豊かさが私の故郷と共通しています。建物などの便利なものが自然の中にあって、どちらかがどちらかを傷つけることなく共存している風景だと感じました」と村の印象を話しました。

